

1年生はゼロからのスタートではない！

小学校に入学する子どもたちは、幼稚園、保育園、認定こども園などの保育・幼児教育施設や、家庭、地域等でさまざまな体験を通して多くのことを学んできています。小学校では、「^いちから教えなくても子どもたちは知っている」ということをふまえ、子どもたちが安心して学べるよう、育ちや学びの連続性を考慮し、幼児期に育まれた資質・能力を各教科の学びにつなげていく授業を行っています。

架け橋プログラムの取り組みを通した気づきをご紹介します

キーワード「育ちの連続性」

架け橋期は急に始まるわけではありません

誕生からの子どもの育ちや経験が生涯の学びへとつながっていきます。遊びの中でたくさんの学びの芽が育まれています。



0歳

1～2歳

3～4歳

5歳

架け橋期

小学
1年生

～6年生

中学生

高校生

架け橋期以降も子どもの育ちはつながって いきます

幼児期に育まれたたくさんの「学びの芽」は、学校で大切にされ、各教科等における「学びに向かう力」や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成など、「自覚的な学び」へとつながっていきます。そして、高学年以降の学びにつながっていきます。

例：保育・幼児教育施設での野菜の栽培や収穫

お世話の仕方を図鑑で
調べたり・・・

どうやって
育つの？

疑問・発見・喜び
知りたい・やってみたい

どっちが大きいかな

並べて数を数えてみたく
なったり・・・

いっぱいとれたよ！
うれしいね！

学校で・・・

幼児期に、植物の生長について経験をとおして知っていること、数・大きさを比べた経験があること、大きさ・重さを体感したことなどが、就学後の学習につながっていきます。

学びの芽生え

自覚的な学び

ご家庭でも・・・生涯の学びへ

子どもが興味をもったことに気づき、その発信に丁寧にに関わり、寄り添うことで、子どもの興味、関心や学びを深めることができます。



おもしろそうだね、
何をみつけたの？

なんていう名前かな。
一緒に調べてみようか。